THE YOMIURI SHIMBUN
讀賣新聞
2012年（平成24年）3月16日金曜日
12版 岐阜2 地域◆30

研究室探訪 64

薬草の鑑定士

岐阜薬科大 酒井英二准教授 48

種類見極め使い方指導

胃腸の働きを助けたり、冷え症を改善したりと、病気の治療や体質改善に用いられる漢方薬。そのもととなる薬草を乾燥・加工した「生薬」をスライスし、顕微鏡で内部構造を調べるほか、種類などを見極める鑑別に取り組む。薬剤師らを目指す学生たちに薬草の鑑別や効能、使い方を教えている「薬草の鑑定士」だ。

出身の福井県の自宅近くにある山林には、薬草が多く見られ、祖母から漢方薬のことをよく聞かされて育った。高校当時、岐阜薬科大の学生で、現在の義兄から漢方薬の研究について話を聞いたこともあって、「漢方薬への興味がわいた」と同大への進学を決意した。

「漢方薬と民間薬を勘違いしている人が意外と多い」と話す。基本的に、漢方薬は生薬を2種類以上混ぜ合わせ、分量や服用時期を制限している。一方、体のむくみをとるとされるドクダミ、下痢止めに用いられるゲンノショウコのように1種類の生薬を煎じて使うのは民間薬で、「病気を治すのではなく、健康維持のために使ってほしい」と強調する。「漢方薬も勝手な判断で安易に使うと、下痢やアレルギーなど思わぬ副作用が出ることもある」と注意を呼びかける。

大学のブランド品作りにも取り組んでいる。同じ薬草を研究する教授らと協力して、カモミールやジャスミンなど4種類を独自に配合したハーブティーを開発。「さわやかな香りとリラックス効果がある」といい、2008年3月、大学の卒業記念品として配った。

「頭がすっきりして勉強に意欲がわくハーブティーを作りたい」と第2弾を考案中だ。「薬草の詳細な成分はわからない部分が多く、まだ研究する余地がある」。漢方薬の普及を図りながら、後継者の育成に力を注ぐ。

文・写真 青山文彦

福井県永平寺町出身。岐阜薬科大卒業。同大大学院博士後期課程修了。当時の国立衛生試験所（現国立医薬品食品衛生研究所）の筑波薬用植物栽培試験場研究員や岐阜薬科大助手などを経て2007年から現職。